

ぴんぐる PEOPLE

読賣新聞

http://job.yomiuri.co.jp/

No. 987

〒100-8055 読賣新聞東京本社広告局「ぴんぐる」編集係

企画・制作

求人広告お申込み/広告内容のお問合せは 電話03-3279-4174

読賣新聞東京本社広告局

記事のお問合せ・投稿は 電話03-3216-8786 FAX 03-3279-2398

輝け「第2の人生」

スポーツ選手の再就職 組織的支援へ

サッカー25歳、野球29歳、相撲22歳……。プロスポーツ選手の平均現役引退年齢は驚くほど若い。引退後、解説者やタレントなどで活動できる選手は、ほんの一握り。大多数の選手は、30年以上を別の仕事に就かなければならない。引退選手の職探しは、一昔前まで各個人の努力によるものが大きかったが、近年、『第2の人生』を組織的に支援する動きが広がっている。

Jリーグ 合同選抜や相談会

現在、Jリーグには、J1、J2の計28クラブに約800人の選手が在籍。毎年、高校や大学を卒業した約100人の新人が入団する一方、同人数の選手がクラブを去っている。シーズン中、思うような成績を残せなかった選手にとって、11月は試験の月。翌年の年俸を決める契約更改で、ゼ口ロ提示、つまり戦力外通告を受ける可能性があるからだ。戦力外となった選手は、他クラブへの移籍などで現役続行を模索するが、受け入れ先が見つからない場合は、選手生活に終止符を打たねばならない。

そんな引退選手の再就職を支援しようと、2002年春、Jリーグにキャリアサポートセンター(CSC)が発足した。戦力外通告を受けた選手を対象に、合同トライアウトを行い、他のJリーグクラブやJFL、地域リーグへ自分を売り込む機会を設けた。引退する

特集

Special Report

可能性のある選手には、12月1〜2月に、セカンドキャリアの個人相談会を全国5か所で開催。現役選手向けにも、インターシップや英会話スクールでの語学無料受講を提供している。CSCスタッフの重野弘



引退選手の第2キャリア形成について語る重野弘

プロ野球 転職情報や研修も

全国野球振興会(日本プロ野球OBクラブ)も昨年、引退選手の再就職支援プロジェクトを立ち上げた。現在、プロ野球界は、セ、パ12球団に約800人が在籍

は、去就が未定だ。

同振興会事務局の坂田賢二さんは、「しっかりとサポーターシステムを作ることで、野球の魅力をアップさせ、野球振興、底辺拡大につなげたい」と話す。

今後、JリーグのCSCを始め、アメリカのNBAやNFLなども参考に、相談窓口開設、転職情報の提供、社会に必要なスキル習得のための研修など、各サービスを提供する予定だ。それにより「社会で活躍するプロ野球OBが増加」↓「引退後の生活に対する不安が軽減」↓「現役選手が集中して野球に取り組める」との効果を狙う。

プロでなくとも、オリンピックを目指すようなアスリートなら、「引退」の文字が意味する影響はプロに等しい。

アマチュア選手の再教育や再就職支援サービスを提供している教育コンサルティング会社「ホープス」(野村のり子社長)は、これまでに水泳、陸上など約40人の選手のキャリア相談に乗ってきた。引退後、選手が解雇されることはなく、社員として給料をもらい続けることも可能だが、実際には選手として会社に貢献出来ないという認識した時点で、自ら退職を選ぶことが多いという。

野村社長は、「スポーツ選手には必ず引退の時が来る。プロにしろアマチュアにしろ、現役の時から第2の人生を考えておくことは大切」と話している。